



学校だより

平成23年4月28日

5月号

江戸川区立大杉小学校

校長 佐久間 俊幸

すてきな大杉小学校

副校長 山崎 美佐子

校庭の若葉の緑も、日増しにすがすがしく感じられるようになりました。子供たちは、新しい学年になり、はりきって学校生活を送っています。ピカピカの1年生も学校生活にも慣れ、楽しそうに学習をしたり、友達と遊んだりして大杉小学校の一員になったようです。先日、実施しました家庭訪問・個人面談では、日程や時間の調整等ご協力ありがとうございました。

私も4月1日に大杉小学校に着任し、ひと月が過ぎました。まだまだ、わからないことも多いのですが、この一ヶ月で大杉小学校のすばらしさに感心させられることがありました。

まずは、『自主性』。始業式では、自分たちの力で、整列ができていました。おしゃべりもなく、さっと並ぶことができ、進んで取り組む力が育っていると感じました。また、校歌斉唱では、天に届くほどの大きな声で、元気よく歌っておりました。高学年になると、なかなか歌えないものです。ところが、大杉小学校の5年生・6年生は、堂々と胸を張り歌っていました。こんなすてきな高学年の子供たちと生活できると思うと、期待で胸がいっぱいになりました。

次に、『挨拶』。登校時に玄関に立っていると、子供たちから進んで「おはようございます。」と、挨拶をしてくれました。「挨拶は魔法の言葉」と言われています。大杉小学校の子供たちが私の心にすてきな魔法をかけてくれました。毎朝、挨拶をするのが楽しみにになりました。

先日の「1年生を迎える会」でも、6年生の劇の中で「6年生は、挨拶をします。」と全校児童に向けて発表していました。素晴らしいですね。

そして、『思いやり』。これは、学校目標にもなっています。「1年生を迎える会」でのことです。1年生が4年生のお兄さん・お姉さんと手をつないで、一人ひとり舞台から入場してきます。4年生が1年生の名前を呼ぶと、1年生は、大きな声で「はい。」と返事をします。その後、舞台から降りるのですが、4年生は1年生の手を取り、ゆっくりと階段を降りていました。相手のことを考えて行動できる姿に感激しました。

最後に、『協力』。保護者や地域の方々は、児童の登下校を見守ってくださったり、図書ボランティアをしてくださったりする等、学校や子供たちのために働いてくださっています。学校と保護者と地域が協力していくことで、子供たちが杉の木のようにすくすくと育っていくのだと思います。

このようなすてきな大杉小学校の副校長として務められることに喜びを感じると共に、責任の重大さも感じております。パイプ役として学校と保護者や地域の方々が連携を図れるよう、努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。